

## 7月号菅野論文「『科学の価値中立説』に対する誤解」を読んで —「科学の価値中立否定」の行き着くところ

菅野論文によって、一連の宗川氏の科学の価値中立否定論は、完膚なきまでに論破されたと思う。これまでの菅野氏らの議論を踏まえて、科学の価値中立論を私なりにまとめる。

科学と科学者は区別されなければならない。科学(的真理)は価値中立(客観的)であるが、科学者は様々な価値観を持っている (JJS48, 11, 54, 2013)。菅野氏は、この「科学の価値中立性」を新たな論拠をもって厳密に定義した。即ち科学と技術は区別されねばならない。科学は理論的価値があり、技術には利用価値がある。科学は利用価値から中立である。科学は技術を通して利用価値に寄与し、両刃の刃になり得る。(JJS50, 7, 44-49, 2015)。

科学の価値中立性を否定し、科学と技術の区別を認めない宗川氏の議論は何処に導くか。資本主義の現代社会において、資本は利潤を上げる利用価値の高い技術(イノベーション)を、のどから手の出るほど欲しており、国を挙げて推進している。資本の技術支配である。科学と技術を区別しない宗川氏にとって、これは科学が即資本に奉仕することになる。日本の技術全体が資本に奉仕する方向にある今、資本の支配に反対する宗川氏は、日本の科学の発展そのものをも否定する「反科学」の立場に行きつかざるをえない。宗川氏は繰り返し、自分は「反科学」ではないと言明してきたが、言葉だけでその論拠を示せない。

科学の価値中立性が維持される限り、資本は科学の発展方向を歪めることはできるが、科学の内容を支配することはできない。科学の価値中立性の土俵の上で、科学者は科学(的真理)を武器に資本側の科学者らと闘うことができる(学会、裁判、ジャーナリズム、社会運動等)。科学・技術が高度に発展し複雑化した現代社会において、この科学の価値中立性の認識を深めることこそ、科学者自身の科学的実践と社会的責任を果たす上で不可欠である。

軍事研究は、軍事技術研究であり、軍事科学研究はありえない。科学は人類の好奇心・探究心の賜物である。技術が利用価値により善用悪用をも決定するので、科学自体にそれを左右する力はない。技術利用に関して科学者個人の力は弱い、「科学の価値中立」を深く認識するならば、科学者は偏見なく堂々と技術の悪用と闘うことが可能になる。さらに、科学者の集団的叡智を發揮し発言力を増すために、市民を含めた第三者組織として、例えば「科学の軍事利用監視委員会」を創設したらどうだろう。JSAは率先して参加しイニシアティブを發揮すべきである。

(宮城支部 嶋田一郎)